

ベンダーマネジメント力の向上

人材育成上の課題・目標

- ・ベンダーのマネジメント手法を知りたい
- ・自社に最適なシステム開発会社の選定したい
- ・システム開発に必要な発注者の役割の理解したい
- ・契約後、発注者としての職務を理解したい

課題解決・目標達成を目指して

- ・ベンダーマネジメントの重要性を理解する
- ・ベンダーの選定方法を理解する
- ・ベンダーを管理する手法を理解する

コースのねらい

情報システム開発の発注者（ユーザー企業）として知っておくべき事項を理解し、システム開発会社（ベンダー）との良好な関係を築くためのベンダーマネジメント手法を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ ベンダーマネジメントの概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ITシステムの「2025年の崖」とは ・ベンダーマネジメントとは ・VMOの編成
	■ ベンダーの選定	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンダーの選定・評価方法 ・システム開発プロジェクトの成功例、失敗例の紹介
	■ VMOが担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ・契約管理 ・リスク管理 ・モチベーション管理手法 ・パフォーマンス管理手法 ・QCDを改善するための検討
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンダーマネジメントのフレームワーク ・システム開発例を用いたVMO演習
応用・実践要素（例）		<ul style="list-style-type: none"> ・ベンダー評価シートの作成

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A 生産管理
 - ・在庫管理システムの導入
 - A 流通・物流
 - ・流通システム設計
 - ・物流システム設計
 - A バックオフィス
 - ・データ活用で進める業務連携
 - ・失敗しない社内システム導入
 - ・企業内でIT活用を推進するために必要なマネジメント
 - B 組織マネジメント
 - ・成果を上げる業務改善
 - ・ムダを発見するための業務プロセスの見える化と業務改善
 - ・DX人材育成の進め方
- ほか

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

IT新技術による業務改善

人材育成上の課題・目標

- ・新技術の導入事例が知りたい
- ・デジタル化のメリット・デメリットが知りたい
- ・自社内でデジタル化できる業務を知りたい
- ・自社業務に適切な新技術を選定したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・新技術の動向を知る
- ・第4次産業革命下、生産性向上につながる新技術を理解する
- ・自社に適したツールを知る
- ・IT化する課題を検討できる

コースのねらい

第4次産業革命下における新技術を含めたITを活用し、作業の自動化や共有能力の拡充等により新たな業務の合理化・迅速化が図られていることを理解し、自社業務に適切な新技術を選定する知識を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 新技術の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・IoTとは ・ビッグデータの活用 ・AIの進化 ・クラウド概要 ・RPAの機能の概要
	■ 新技術の導入事例	<ul style="list-style-type: none"> ・各種新技術を活用した事例紹介（事業拡大や新たな事業創出に繋がった例）
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・自社課題におけるデジタル化の検討 ・課題を通じた新技術によるビジネス展開演習
応用・実践要素（例）		<ul style="list-style-type: none"> ・IT化の必要性に係る検討 ・クラウドサービスを活用した業務の効率化 ・VDI（仮想デスクトップインフラ）を利用したオフィス環境構築

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層

関連コース

- A バックオフィス
- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
 - ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入
 - ・クラウド活用入門 ・クラウドを活用したシステム導入
 - ・クラウドを活用した情報共有能力の拡充
 - ・導入コストを抑えるクラウド会計・モバイルPOSレジ活用
 - ・IoT活用によるビジネス展開
 - ・IoT導入に係る情報セキュリティ
 - ・RPAを活用した業務効率化・コスト削減
 - ・RPA活用 ・テレワーク活用
 - ・テレワークを活用した業務効率化
 - ・ITツールを活用した業務改善
 - ・AI（人工知能）活用 ・生成AIの活用 ・ビッグデータ活用
- B 組織マネジメント
- ・IoTを活用したビジネスモデル ほか

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

AI（人工知能）活用

人材育成上の課題・目標

- ・ AI の仕組みを知りたい
- ・ AI の導入事例を知りたい
- ・ AI 活用のメリット・デメリットを知りたい
- ・ AI の活用方法がわからない



課題解決・目標達成を目指して

- ・ AI の仕組みを知る
- ・ AI の導入事例を知る
- ・ AI を業務に活用する方法を理解する
- ・ AI の活用における課題を知る

コースのねらい

AI（人工知能）の概要とビジネスの現場におけるAIの具体的な活用場面等について理解し、AI活用に係る知識を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ AI（人工知能）の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ AI（人工知能）とは ・ 機械学習 ・ ニューラルネットワーク ・ ディープラーニング
	■ AIの活用事例と今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ AIの具体的な活用事例紹介 ・ AI導入の課題 ・ AIの今後の展望
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を通じたAIを活用したビジネス展開演習 ・ クラウドサービスを利用した機械学習/AI体験 ・ 機械学習/AI体験を利用したビジネス展開演習
	応用・実践要素（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自社におけるAI活用の検討 ・ AI活用における課題・分析 ・ AIを活用したサービス構築演習

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層

関連コース

- A バックオフィス
- ・ 生成AIの活用
 - ・ DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
 - ・ DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入
 - ・ クラウド活用入門
 - ・ クラウドを活用したシステム導入
 - ・ クラウドを活用した情報共有能力の拡充
 - ・ IoT活用によるビジネス展開
 - ・ IoT導入に係る情報セキュリティ
 - ・ IT新技術による業務改善
- B 組織マネジメント
- ・ IoTを活用したビジネスモデル ほか

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

生成A I の活用

人材育成上の課題・目標

- ・生成A I の仕組みを知りたい
- ・生成A I の導入事例を知りたい
- ・生成A I のメリット、デメリットを知りたい
- ・生成A I の活用方法がわからない



課題解決・目標達成を目指して

- ・生成A I の仕組みを理解する
- ・生成A I の導入事例を知る
- ・人間の創造的な作業をサポート・代替することを理解する
- ・テキスト、画像、音声、動画、コードなどを生成する能力を理解する

コースのねらい

生成A I の概要とビジネスの現場における、具体的な活用シーン等について理解し、A I と協働することによる業務の質とスピードを高める技術を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 生成A I の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・生成A I とは ・大規模言語モデル等 ・守るべき倫理・安全性・透明性・責任等
	■ 生成A I の活用事例と今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・生成A I の活用事例紹介 ・生成A I 導入の課題 ・多様な業務への応用と規制
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・メール返信文書の自動作成 ・議事録の自動作成 ・提案書、プレゼン資料の自動作成
	応用・実践要素（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・自社における生成A I の活用の検討 ・生成A I 活用における課題・分析 ・多様な業務への応用事例

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層

関連コース

- A バックオフィス
- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
 - ・A I（人工知能）活用
 - ・クラウド活用入門
 - ・クラウドを活用したシステム導入
 - ・クラウドを活用した情報共有能力の拡充
 - ・I o T活用によるビジネス展開
 - ・I o T導入に係る情報セキュリティ
 - ・I T新技術による業務改善
- B 組織マネジメント
- ・I o Tを活用したビジネスモデル
- ほか

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

ビッグデータ活用

人材育成上の課題・目標

- ・ビッグデータの活用事例が知りたい
- ・ビッグデータ活用のメリット・デメリットを知りたい
- ・ビッグデータを活用し分析を図りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・ビッグデータとは何か理解する
- ・ビッグデータの活用方法や活用事例を知る
- ・ビッグデータを活用したデータマイニングなどの分析手法を知る

コースのねらい

ビッグデータの活用に当たって必要な情報を選定する方法を理解し、ビジネス展開できる知識を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ データの収集	<ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータとは ・必要情報の整理と収集 ・オープンデータの活用
	■ ビッグデータの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・データ収集基盤と分析基盤 ・データマイニングとは ・ビッグデータの活用事例
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・自社が所有するビッグデータの洗い出し ・オープンデータのビジネス展開の検討 ・データマイニングを用いたビッグデータ解析演習
応用・実践要素（例）		<ul style="list-style-type: none"> ・自社におけるビッグデータ活用の検討 ・ビッグデータ利用のためのAI・クラウド活用事例 ・ビッグデータ活用に伴うセキュリティ対策

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層

関連コース

- A バックオフィス
- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
 - ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入
 - ・クラウド活用入門
 - ・クラウドを活用したシステム導入
 - ・クラウドを活用した情報共有能力の拡充
 - ・IoT活用によるビジネス展開
 - ・IoT導入に係る情報セキュリティ
 - ・IT新技術による業務改善
- B 組織マネジメント
- ・IoTを活用したビジネスモデル

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

055

RPAを活用した業務効率化・コスト削減

人材育成上の課題・目標

- ・定型の事務処理などを自動化したい
- ・業務の効率化をめざして、RPAを導入したい
- ・間接部門の人件費を削減したい
- ・コスト削減と併せて質の高い製品・サービスを提供したい
- ・先進的なRPA導入事例を知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・RPAの機能、特徴とRPA導入のメリットを理解する
- ・RPA導入上の問題検証を知る
- ・RPA導入におけるコスト削減策を作成する
- ・先進的な導入事例を知る

コースのねらい

業務の効率化とコスト削減をめざして、RPAの技術概要や活用事例、活用検討にあたってのポイントを理解し、RPAを活用した自社業務の課題解決策立案に繋げることができる能力を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 業務を自動化するRPA（Robotic Process Automation）	<ul style="list-style-type: none"> ・RPAの機能の概要 ・RPAの特徴（活用の向き／不向き） ・RPAを導入するメリット ・RPAの活用事例
	■ RPAを活用した業務効率化とコスト削減策の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・RPA活用のための業務の見える化 ・RPA活用による業務効率化の検討 ・RPA導入コストと削減コストの比較 ・導入に係るコスト削減策立案
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・自動化・定型化できる業務の洗い出し演習 ・RPA導入上の問題検証 ・自社内業務の自動化検討演習
	応用・実践要素（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・RPAが適用できる定型業務事例の紹介 ・RPA導入によるコスト削減の成功例と失敗例 ・RPA導入の必要性に係る検討

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A バックオフィス
- ・クラウド活用入門
 - ・クラウドを活用したシステム導入
 - ・IoT活用によるビジネス展開
 - ・Pythonを活用した事務業務の効率化
- B 組織マネジメント
- ・IoTを活用したビジネスモデル

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

RPA活用

人材育成上の課題・目標

- ・ RPA (Robotic Process Automation) を活用して業務の効率化を図りたい
- ・ RPA を使用してみたい
- ・ RPA を活用した業務の自動化を行いたい
- ・ RPA 導入方法を知りたい
- ・ RPA 導入後の保守について知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・ 実際に RPA ツールにふれ理解する
- ・ RPA の特徴と導入方法について理解する
- ・ RPA 活用に必要な運用ルールについて理解する
- ・ RPA の活用方法を習得する

コースのねらい

業務の自動化による生産性の向上を目指して、RPAの概要や導入手順、活用方法を理解する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ RPAの導入手順	<ul style="list-style-type: none"> ・ RPAの概要と導入の流れ ・ RPAの適用範囲（対象業務）の決定 ・ 対象業務のプロセスや業務量のまとめ ・ RPAの運用ルールの整備
	■ RPAの活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ RPAツールの種類 ・ コーディング方法と実行 ・ 動作テスト・検証
	■ RPA開発の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自社開発のメリット・デメリット ・ 自社開発とベンダーによる開発 ・ 運用と保守
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動化が可能な業務の抽出 ・ RPAを使用した業務自動化
	応用・実践要素（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動化したい業務内容に適したRPAの選定 ・ 自社内業務を想定したRPAの活用 ・ RPA導入前後におけるコストの比較 ・ RPA運用上の課題とその対策

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
 なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
 ※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

初任層、中堅層

関連コース

- A バックオフィス
- ・ RPAを活用した業務効率化・コスト削減
 - ・ クラウド活用入門
 - ・ クラウドを活用したシステム導入
 - ・ クラウドを活用した情報共有能力の拡充
 - ・ IoT活用によるビジネス展開
 - ・ IoT導入に係る情報セキュリティ
 - ・ IT新技術による業務改善
 - ・ Pythonを活用した事務業務の効率化
- B 組織マネジメント
- ・ IoTを活用したビジネスモデル ほか

使用機器等

RPA導入済パソコン

119

DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

人材育成上の課題・目標

- ・DXの事例が知りたい
- ・顧客及び社会のニーズを基に、ビジネスモデルを変革させたい
- ・従来の組織、企業文化・風土を見直したい
- ・DXの推進に必要な社内体制を構築したい
- ・DXの推進に必要な知識、デジタル技術を知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・各企業におけるDX推進の動向を知る
- ・DXを推進する関係者間での共通理解の形成や社内推進体制の整備といった事業変革の環境整備への取り組みが必要なことを理解する
- ・DX推進のための経営のあり方、仕組みを理解する
- ・現状の課題から、DX推進のためにとるべきアクションを検討できる
- ・IT新技術の動向を知る

コースのねらい

DX（デジタルトランスフォーメーション）による企業変革の有効性を理解し、自社のDX推進に向けたポイントを習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ DX概論	<ul style="list-style-type: none"> ・DXとは ・企業に求められる変革 ・DXの認知・理解（目標設定）
	■ DX導入事例	<ul style="list-style-type: none"> ・DXに成功した事例紹介 ・成功の要件（戦略性、費用対効果）
	■ DX戦略の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・DX推進体制の整備 ・業務プロセスの再設計 ・DXの具体的な取組領域の決定 ・DXを推進するためのデジタル技術の概要
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・自社課題におけるデジタル化の検討 ・課題を通じたDXによるビジネス展開演習 ・DX推進指標を活用した推進状況の把握
応用・実践要素（例）		<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル企業へ迅速に変革する能力の獲得（ベンダー企業、DX人材の確保）

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

管理者層

関連コース

- A バックオフィス
- ・クラウドを活用した情報共有能力の拡充
 - ・IoT活用によるビジネス展開
 - ・ITツールを活用した業務改善
 - ・IT新技術による業務改善
 - ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入
 - ・生成AIの活用
- B 組織マネジメント
- ・ダイバーシティ・マネジメントの推進
 - ・企画力向上のための論理的思考法
 - ・成果を上げる業務改善
 - ・組織力強化のための管理
 - ・プロジェクト管理技法の向上
 - ・DX人材育成の進め方
- ほか

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

データサイエンス入門

人材育成上の課題・目標

- ・データサイエンスを行う有用性を知りたい
- ・データサイエンスによりビジネス価値が生まれた事例を知りたい
- ・自社データをビジネスに活用したい
- ・得られたデータを解析、分析したい

課題解決・目標達成を目指して

- ・データサイエンスを活かせるフィールドを知る
- ・データサイエンスを活用するための分析手法を習得する
- ・分析結果から使用できるアクションを選択できる

コースのねらい

ビジネスに展開するためのデータの活用方法を理解し、データサイエンスを活用するための分析手法を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ データサイエンス概論	<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスとは ・データサイエンスの役割 ・データサイエンティストとデータアナリストの違い ・データサイエンスを活用したビジネスの事例紹介
	■ データリテラシー	<ul style="list-style-type: none"> ・データ理解、解釈、分析 ・統計解析を用いたデータ分析基礎
	■ データサイエンスの手法	<ul style="list-style-type: none"> ・データ分析のためのデータの取得と管理 ・記述統計 ・推測統計 ・機械学習（AI）
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・データ分析の基礎（手法と事例） ・表計算ソフトを用いたデータ分析 ・機械学習（AI）フレームワーク体験
応用・実践要素（例）		<ul style="list-style-type: none"> ・解析演習（BIツールの活用方法等） ・データマイニング ・課題を通じたデータサイエンスによるビジネス展開及び演習

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A バックオフィス
- ・IoT活用によるビジネス展開
 - ・AI（人工知能）活用
 - ・ビッグデータ活用
- B 組織マネジメント
- ・IoTを活用したビジネスモデル
- C 営業・販売
- ・統計データ解析とコンセプトメイキング
- D データ活用
- ・効率よく分析するためのデータ集計
 - ・表計算ソフトを活用した統計データ解析

使用機器等

パソコン

GX（グリーントランスフォーメーション）の推進

人材育成上の課題・目標

- ・GXとは何か知りたい
- ・GX推進事例を知りたい
- ・自社の環境影響評価を行いたい
- ・持続可能性の目標設定と改善計画を立てたい
- ・GXの実践に向けた方策を知りたい
- ・GX実践に向けたスキルとアイデアを身に着けたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・GXの基本概念を理解する
- ・GX推進事例を知る
- ・自社の環境影響とリスクを理解する
- ・持続可能性の目標設定ができ、改善計画の立て方を理解する
- ・GXの実践に向けた方策を理解する
- ・GX実践に向け、技術的な解決方法を理解する

コースのねらい

持続可能な環境への配慮を強化し、社会的、経済的な持続可能性を追求する取り組みとしてグリーントランスフォーメーション（GX）の推進が謳われている。この講習をとおして、持続可能なビジネス戦略の策定と実施に必要な知識を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ GXの基本概念	<ul style="list-style-type: none"> ・GXの概要 ・持続可能性の重要性とビジネスへの影響 ・GXの成功事例の紹介
	■ GXの戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の環境影響とリスクの評価 ・持続可能性目標と計画立案 ・GXの実施と運用
	■ GX推進策	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー効率の向上 ・環境への影響削減（温室効果ガス削減など） ・持続可能なサプライチェーンの構築
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・自社の環境への影響を議論し、目標を設定 ・自社ビジネスに適用できるGX戦略の設計 ・グループでアイデアを共有し、持続可能なビジネスモデルの具体的な策定を検討
	応用・実践要素（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・業種別の対応と協働の実践事例 ・他業種の参加者と協力して、異なる視点から協働 ・自社内GXプロジェクトチームの立上げ

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。

※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層

関連コース

- A 流通・物流
 - ・SCMの現状と将来展望
- A バックオフィス
 - ・IT新技術による業務改善
- B 組織マネジメント
 - ・ビジネスとSDGs（持続可能な開発目標）の融合
 - ・ムダを発見するための業務プロセスの見える化と業務改善

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。